

クラス番号	613	担当教員名	藤井 博之
テーマ	地域医療はどのように構築されるか		
著書・論文 研究課題等	川上武編著『戦後日本病人史』勁草書房, 2002 年 保健医療福祉キーワード研究会『保健医療福祉のくせものキーワード事典』医学書院, 2008 年 藤井博之ほか編著『リハビリテーションとしての在宅医療』南山堂, 2011 年 藤井博之「在宅リハビリテーション PT・OT・ST に何をどう依頼するか」治療, 2013 年 2 月号		
ゼミナール 概要			
キーワード：地域医療 地域ケア 地域リハビリテーション 多職種協働 当事者主権			
【目的】医療は福祉の一部であり、地域医療は地域でおこる出来事の一部だという立場をとります。地域医療の優れた実践の中には社会事業としてはじまり、発展してきた例も少なくありません。‘地域医療’には二つのとらえ方があります。行政区画ごとの医療をどう確保するかという行政的視点と、自分たちの住む・働く地域でどのように医療を充実させるかという運動的視点です。私は主として後者の立場で、地域医療がどのように構築されていったかを考えています。そこでは、福祉と異なる医療の論理や力が働くことも事実です。そこをよく考えることは、医療福祉で働こうとする方はもちろん、医療とどう向き合うかに関心のある方にも、よいテーマになると思います。 【内容】研究テーマでは、医療技術と社会福祉援助、在宅医療・地域リハ（Community Based Rehabilitation：CBR）と‘地域包括ケア’、農村医療と都市の医療、当事者・医療者関係、‘多職種協働’、地域包括ケアなどが得意分野です。これらに限らず、ゼミ生の問題関心とやる気があれば、各自のテーマを深めるお手伝いします。 【方法】文献購読、ネット等メディアを使った情報収集、本学大学院の「ケースメソッド」教材を使ったディスカッション、フィールド調査・インタビュー、統計調査などの方法で、「地域の一部としての地域医療」のダイナミズムに迫ります。また、他学部・他大学の医療系の学生や現場で働く人たちと一緒に学ぶ機会をつくり、IPE（Interprofessional Education）の手法を取り入れる予定です。毎週のゼミだけでなく、学外での学習、フィールド調査、夏と春の合宿への参加が必須です。なお合宿等は上の学年と合同で行うことを原則とします。 【授業計画】発言・発表、レポート、病院見学やフィールド活動、ゼミ内の役割分担など、積極的に学ぶことを求めます。2017 年の卒業生は、全員が卒論単位を取り、就職・進学し、国家試験合格率は 75%でした。 ◎3 年生前期：講義、文献購読、ケースメソッド、現場見学に取り組みます。早期から問題関心別サブグループを作り、サブゼミとゼミ全体でそれぞれグループワークを行います。夏休み、またはそれより前にゼミ合宿を行い、そこで提出する卒論研究計画書について指導します。 ◎3 年生後期：一人一人が卒論について、文献調査、調査に取り組み、ゼミで報告・討論します。ゼミ全体で、病院見学などのフィールド調査に行きます。春休みには、ゼミ合宿を行います。 ◎春休みから 4 年生前期に卒論の調査をやり遂げて、夏休み中に卒論の執筆をほぼおえるように指導します。4 年生後期はゼミでも国家試験準備に取り組みます。 ◎藤井が行うフィールド研究（本学「地域研究プロジェクト」や、長野県南佐久郡や佐久総合病院など）との連動で、具体的な臨床事例や拠点・地域研究の機会をつくる予定です。			
担当教員からのメッセージ			
 本ゼミは、全員が、卒論提出、就職または進学、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験合格を目標にすることを求めます。そのために、卒論は 4 年生の 9 月までに完成させます。夏休みや春休みの合宿の参加も必須です。 2015 年に本学の専任教員になり、4 期目のゼミ生受け入れです。多職種連携教育、医療史、医療技術論も関心のある分野です。もともと臨床医で在宅医療、リハビリテーション医療、診療所やリハビリテーション病院の運営に携わってきました。いまでも佐久病院（長野県）などで診療とフィールド活動を続けています。			